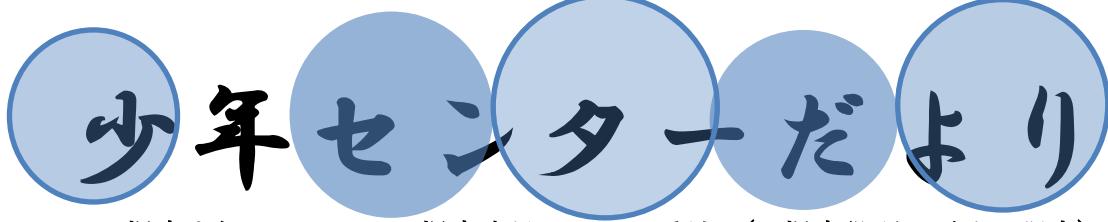


<第130号>

令和2年2月3日発行



可児市少年センター 可児市広見一丁目1番地 (可児市役所人づくり課内)
TEL (0574) 62-1111

地域と青少年の 安全と安心を見守る

[青パトによる街頭補導]

写真は、少年センターの補導員による青パト（青色回転灯搭載車による街頭補導）の出発準備の様子です。本年度も、補導員の皆さんに熱心に補導に取り組んでいただいています。これまでの活動をご紹介します。



[少年センター補導員の皆さんによる街頭補導]

可児市青少年育成推進員24名の皆さんのがリーダーとなり、各地区の青少年育成委員の補導担当の皆さん73名が少年センター補導員として補導活動を行っています。4名の班を編成して、各班が年間4回、青パトに乗車して学校周辺や通学路、公園、公共施設、駅、大型店舗、ゲームセンター等を巡回して、子どもたちに声掛けをしながら、青少年の安全を見守っています。

本年度4月から12月までの補導活動の回数と巡回時間帯は、次のとおりです。

朝の巡回	12回	[7時～ 9時]	通学路を中心に巡回
昼の巡回	20回	[15時～17時]	学校周辺や公園、公共施設、駅等を巡回
夕方の巡回	20回	[17時半～19時半]	駅や公園、学校、公共施設等を巡回
夜の巡回	20回	[20時～22時]	公園、駅周辺、公民館、学校等を巡回 大型店周辺、ゲーム場等も巡回

「気を付けて帰ってね」「周りの人に気を配ってね」「交通安全に気を付けてください。」など、これまでに、1086名の青少年に声を掛けいただいています。どの青少年も、素直に声掛けに応じています。また、通学路では登下校の小・中学生の元気な挨拶の声もたくさん聞くことができます。

[夏休みの特別補導、可児夏まつりの補導]

市内の小中学校の夏休み期間中には、各小中学校のPTA会長の皆さんや各地区の補導部の部長さん、そして市の推進員の皆さんで、夜20時半から22時半の時間帯に青パトによる巡回補導を13日間実施していただきました。マーカーや大型店舗等、青少年が多く集まる場所を巡回していただき、積極的の声かけをしていただきました。

また、可児夏まつり補導は、8月10日と11日の両日に実施しました。可児警察署の指導員や協力員の皆さん、また保護司の皆さんと一緒に会場を巡回しました。帰宅が遅くなっている青少年に呼びかけたり、体調不良の参加者に付き添ったりしていただきました。

[各地区の補導活動]

各地区ではそれぞれの地域の実情に応じて、青少年育成に関わる皆さんの協力で、夏休み期間中の補導活動を行っていただいています。すべての地区的活動状況を累計すると補導活動に参加してくださった皆さんの総数は395名、実施日数は総累計で65日、声掛け人数は122名となりました。

それぞれのお立場で、青少年の安全な生活のためにご尽力いただき、ありがとうございました。

「こころ元気な大人が子どもの未来を築く！」 ～こころ元気に 今日から ここから～

＜青少年育成シンポジウム演題より＞

可児市青少年育成市民会議は、令和元年11月16日（土曜日）に、「子ども・若者育成支援強調月間」にちなみ「青少年育成シンポジウム」を開催しました。講師として、鎌田 敏先生（こころ元気研究所 所長）をお招きしました。

先生は、青少年を育てるための大人としての心構えについて、関西弁を交え親しみやすく、参加者が実体験できるように参加型ワークを多用しながら、次のようにお話しくださいました。

1 心にとって良い空気をつくろう（環境を整える）

人と人との関係づくりの上では、「（相手の）心にとって良い空気」をつくることが大切です。相手を思いやり、双方向のコミュニケーションを心がけていく。そのための土台となるのが

「挨拶」です。「挨」とは、「（自分の心を開いて）相手に歩み寄る」こと。「拶」とは、「（歩み寄られた側も）心を開く」ことです。つまり、コミュニケーションとは、互いに歩み寄るキャッチボールをイメージすると分かりやすいのではないでしょうか。

2 こころ元気な大人が、子どもの未来を築く！（意思をもつ）

人は、本質的なことを問われると、前向きなことを答える傾向があります。隣の方に尋ねてみてください。「子育てで大切にしていることは何ですか」と。きっと、ポジティブなお話をされることでしょう。その時、大切なのは、聞き手の「聞く」姿勢です。けっして相手を正そうとせず、分かろうとしてください。傾聴の「聴」の字で、「聞く」ことを心がけましょう。そのうえで、「メッセージ」を付け加えると効果的です。「あなたは」と語りかける「ユーメッセージ」では、相手を非難・評価しがちです。「私」を主語にして、自分自身の思いを付け加えましょう。「よくやったね。お母さんもうれしいよ」。普段から、このように育てられている子どもは、どんな思いを抱くでしょう。さあ、隣の人にポジティブなことを語ってもらい、メッセージを返しましょう。

3 大人の背中、子どもの未来（行動に移す）

ここに、歩くためにリハビリしている患者さんがいるとします。あなたなら、どんな声をかけますか。「足の具合はどうですか」と尋ねることもいいでしょう。でも、より効果的なのは、「歩けるようになったら、どこへ行ってみたいですか？」と、明るい未来をイメージしてもらうことです。同じことが、子どもの教育についても言えます。まずは、「今日、こんなことがあってね」と、大人の世界の楽しさを話題にしていきましょう。

その次に、大人のより良い姿を示していく。例えば、新幹線のリクライニングシートを戻すとか、レストランの椅子を元に戻すとか。子どもたちは見ていますよ、大人の背中を。だから、見られることを意識して、まずは、子どもが小さな時から、いっしょに履物をそろえていきましょう。習慣は第二の天性と言われます。「習い性となる」習慣が、子どもの性格をつくっていくのです。

4 レッツのコミュニケーション（協働を心がける）

最後に、少し動いてみましょう。近くの4、5人で手をつないで横一列になってください。今から、その場で軽くジャンプします。私は合図をしませんので、自分たちのタイミングで跳んでください。素晴らしいですね。やってみて、気づかれたことがあると思います。誰かが、まず、動いているんですよ。そのうえで、「レッツ」のコミュニケーションで共に動く。子どもたちの未来のため、周りを巻き込んで「ウイー」（私たち）の意識で、すてきな空気をつくっていただきたいと思います。

ご自分のことを「こころ元気配達人」とおっしゃる通り、講師の温かい思いが参加者に伝わり、「今日ここから」の青少年育成について考えを深める機会となりました。



青少年の健全育成にご協力を

11月は『子ども・若者育成支援強調月間』です。可児市内各所で、声かけや啓発物資の配布等、街頭啓発活動を行っていただきました。

○ 開始式 市役所正面玄関

令和元年11月3日(日曜日)

開始式では、可児市長及び可児警察署長にあいさつをしていただきました。

その後、大型店舗や地区センターまつり会場で、次のような呼びかけを行いました。

- ① スマホ利用の約束づくり
- ② 危険ドラッグ等の乱用防止



開始式のようす

○ 参加者の皆様

この啓発活動には、市内の高等学校のMSリーダーズのみなさん(可児工業高等学校、可児高等学校、帝京大学可児高等学校)や、各地区的関係者・青少年育成推進員と合わせて219名の参加により、およそ5千名を超える市民の皆さんに呼びかけることができました。

○ 啓発活動場所

次の、市内大型店舗と地区センターの協力を得て実施しました。

[ご協力いただいた店舗]

- ドン・キホーテ UNY 可児店
- 綿半スーパーセンター可児店
- エディオン今渡店
- パレマルシェ西可児店
- バロー西可児店
- オークワ可児坂戸店 ○バローホームセンター可児坂戸店
- バロー広見店 ○ヨシヅヤ・パティオ可児店



啓発活動のようす



高校生のみなさん

[地区センターまつり会場]

- 中恵土地区センターまつり ○川合地区センターまつり
- 土田地区センターまつり ○姫治地区センターまつり
- 平牧地区センターまつり ○桜ヶ丘地区センターまつり
- 兼山地区センターまつり

相談窓口のご紹介

◇スマホやインターネットのトラブルや被害の相談

犯罪被害 #9110 (県警、地区の警察署の相談窓口につながります)

お金の被害 188 (最寄りの消費者生活センターにつながります)

◇いじめ相談

可児市いじめ防止専門委員会 (子ども専用ダイヤル) 0120-263-115
(相談室 直通電話) 0574-62-8700

岐阜県「いじめ相談24」 0120-740-070 (フリーダイヤル: 24時間いつでも対応)
058-274-0010 (直通電話: 携帯電話はこちら、ただし有料)

◇青少年の問題についての相談

可児市 人づくり課 青少年係 0574-62-1111 (内線2116、平日9時~16時)

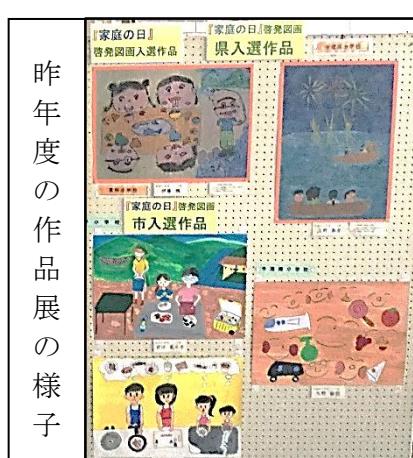
毎月 第3日曜日は『家庭の日』

岐阜県では、県内の小中学生を対象に、「家庭の日」の普及・実践活動の一環として、「『家庭の日』啓発図画・ポスターの募集」を行っています。また、可児市青少年育成市民会議では、市内の小中学生を対象に、「一家庭一実践」のいっそうの普及を願い「『わが家の宝物』作文・標語の募集」を行っています。いずれも、小中学生に明るく豊かな家庭づくりについて考えるきっかけにしてもらいたいと、毎年、実施しているものです。

本年度は、この二つの作品募集に、合わせて2149名の児童・生徒の皆さんが応募してくれました。寄せられたそれぞれ作品からは、「家庭のふれあい」や「家族の団らん」、「親子の情愛」や「家族への感謝」など、作者の温かな思いが伝わってきます。

少しでも多くの方に、二つの作品募集の入選作品を味わっていただきたいと、令和2年1月17日から30日まで、可児市広見地区センターで「『家庭のぬくもり』図画・作文・標語作品展」を開催しました。また、作文・標語の募集の入選作品を集め、「『わが家の宝物』作文・標語集 第19集」を発行しました。この「第19集」は、市立図書館(本館と分館)や、各小中学校の図書館にございます。お手に取っていただけたら幸いです。

ここでは、昨年度作品展の様子と、「わが家の宝物」標語の部の優秀賞受賞作品を紹介します。



「わが家の宝物」作文・標語作品集(第19集)

- ・可児市役所 人づくり課
- ・可児市立図書館
- ・桜ヶ丘分館、帷子分館
- ・市内各小・中学校の図書館にて、ぜひご覧ください。

「わが家の宝物」標語の部 優秀賞作品より

昨年度の作品展の様子

おかえりと むかえる言葉 あたたかい

土田 小学校

日下部 穂さん

家族のわ 「いただきます」で つながるよ

今渡南 小学校

服部 亜海さん

何気ない、「おかえり」の言葉が 温かい

桜ヶ丘 小学校

河村 空雅さん

しわしわの 手に教わった ちょうどよ結び

中部 中学校

田坂 望愛さん

「行つてらっしゃい。」

笑顔で見送り ありがとう

心も体も ばっかばか

西可児 中学校

神谷 柚香さん

「あなたが完璧じゃなくても愛してるよ。」
その言葉がぐつときた。

蘇南 中学校

グバツト ソフィアさん

【紹介】岐阜県若者サポートステーション

〔無業状態の若者〕が社会的・職業的自立を目指すための相談窓口です。

◇ 対象：15歳～39歳までの若者、及び、その保護者です。

◇ 相談はすべて無料・予約制です。(事前の問い合わせが必要です。)

◇ 問合せ先 TEL 058-216-0125 E-Mail gifusapo@cds.jp

※ 無業状態の若者のサポートのためには、まずはご両親を始めとする家族の支えが重要だと言われます。ご家族が相談されることも大切です。就活に踏み出せなくてお悩みの方、お気軽にお問い合わせください。

なお、相談活動は、毎週水曜日に可児市総合会館(広見 1-5)でも行われています。